

「新之助」生育速報 No. 8

平成28年8月1日
村上農業普及指導センター

1 生育調査ほ・実証ほにおける生育状況（8月1日現在）

生育概況

草丈:並 茎数:並 葉令:並 葉色:並

- 生育は、全体的に順調に推移している。
- 葉色は地域差がある。
- 予想出穂期は、概ね指標値並となっている。十川の出穂期は、昨年より3日遅い8月15日と予想される。

○新之助生育調査ほ・実証ほの調査結果（8月1日現在）

調査場所	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	予想出穂期
関川村下関（関川）	5月18日	73	533	13.6	31.5	8月18日
村上市牛屋（神林）	5月16日	72	437	14.2	33.9	8月14日
村上市十川（朝日）	5月16日	73	432	14.3	34.4	8月15日
平均	5月17日	73	467	14.0	33.3	8月15日
指標値（暫定）	5月15日	72	485	12.9	34.0	8月15日
【参考：十川（H26、27平均値）】	5月13日	72	411	14.4	35.8	8月12日

※ 調査場所は、普及センターで設置のほ場

2 今後の技術対策

当面の管理のポイント

◎2回目の穂肥を適期にしっかりと！

- ・2回目の穂肥については、出穂14日前（2回目）にしっかりと施用する。
- ・2回目の穂肥量は、1kg/10aを基本とするが、地力や生育状況、気象予報から判断して、1.5kg/10aを上限（1回目と併せて3kg/10a以内）に施用量を調節し栄養凋落を防止する。
- ・出穂10日前以降の穂肥は、食味を低下させるので原則施用しない。ただし、異常高温（猛暑）で栄養凋落が予想される場合には、追加の穂肥も検討する。

◎水管理

- ・ 飽水管理を継続する。特に稲体は、減数分裂期から出穂・開花期にかけて最も水を必要とするので水が不足しないようにする。
- ・ 異常高温、強風、フェーン時には速やかに湛水し、稲体の急激な蒸散防止に努める。
- ・ 異常低温が予想される場合には一時的に深水とし幼穂を保護する。
- ・ 輪番給水地域は、気象予報等に十分注意し、異常気象が予想される場合は給水可能な日にあらかじめ十分湛水するなど事前に対応できるよう水管理に努める。

◎いもち病対策

- ・ 穂いもち防除は、葉いもちの発生がない場合でも予防防除を実施する。
- ・ 粒剤を施用する場合は、適期（出穂前 20 日～10 日）となっているので、直ちに施用する。
- ・ 粉・液剤で行う場合は、出穂期直前と穂揃い期の 2 回防除を実施する。
- ・ 共同防除は、新之助の防除適期とならない場合が多いので、その場合には、新之助に合わせた防除とする。

◎カメムシ対策

- ・ 県病虫害防除所の 8 月の発生予想では、7 月下旬のカスミカメムシ類の畦畔雑草地及び本田内発生量は近年並みに多い予想となっている。
- ・ 定期的な草刈りで生息密度を低下させる。
- ・ 防除については、アカスジカスミカメを主対象とした殺虫剤の散布を適期に行う。